

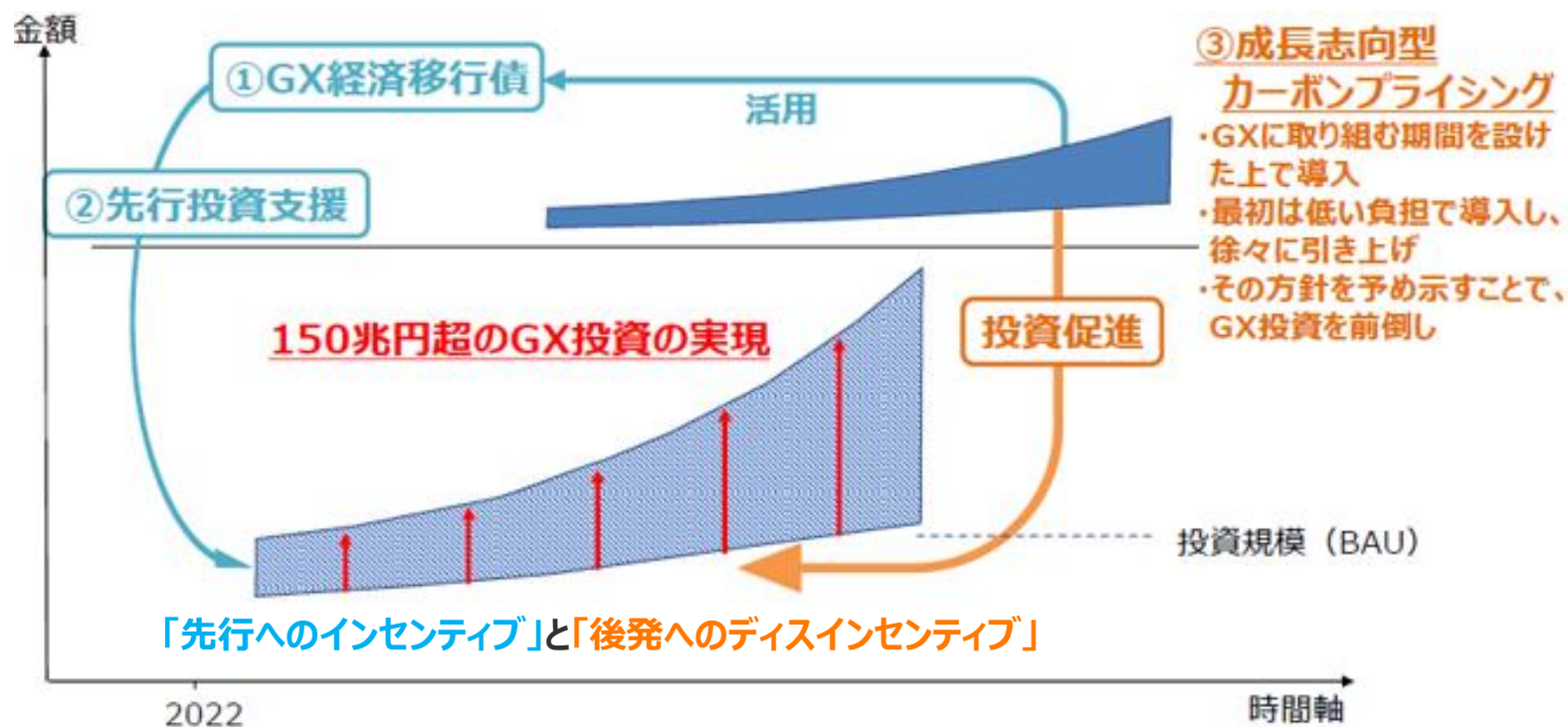
第6回 GX実行会議

令和5年6月27日

中部電力株式会社
代表取締役会長
勝野 哲

GX経済移行債を活用した支援と成長志向型カーボンプライシング 中部電力

- カーボンニュートラルは長期に亘って経済社会・産業構造改革を促していくものであり、**規制**（カーボンプライシング）と**支援**（GX経済移行債を活用した先行投資支援）の併用を長期・一貫した措置とする必要。
⇒「先行へのインセンティブ」と「後発へのディスインセンティブ」

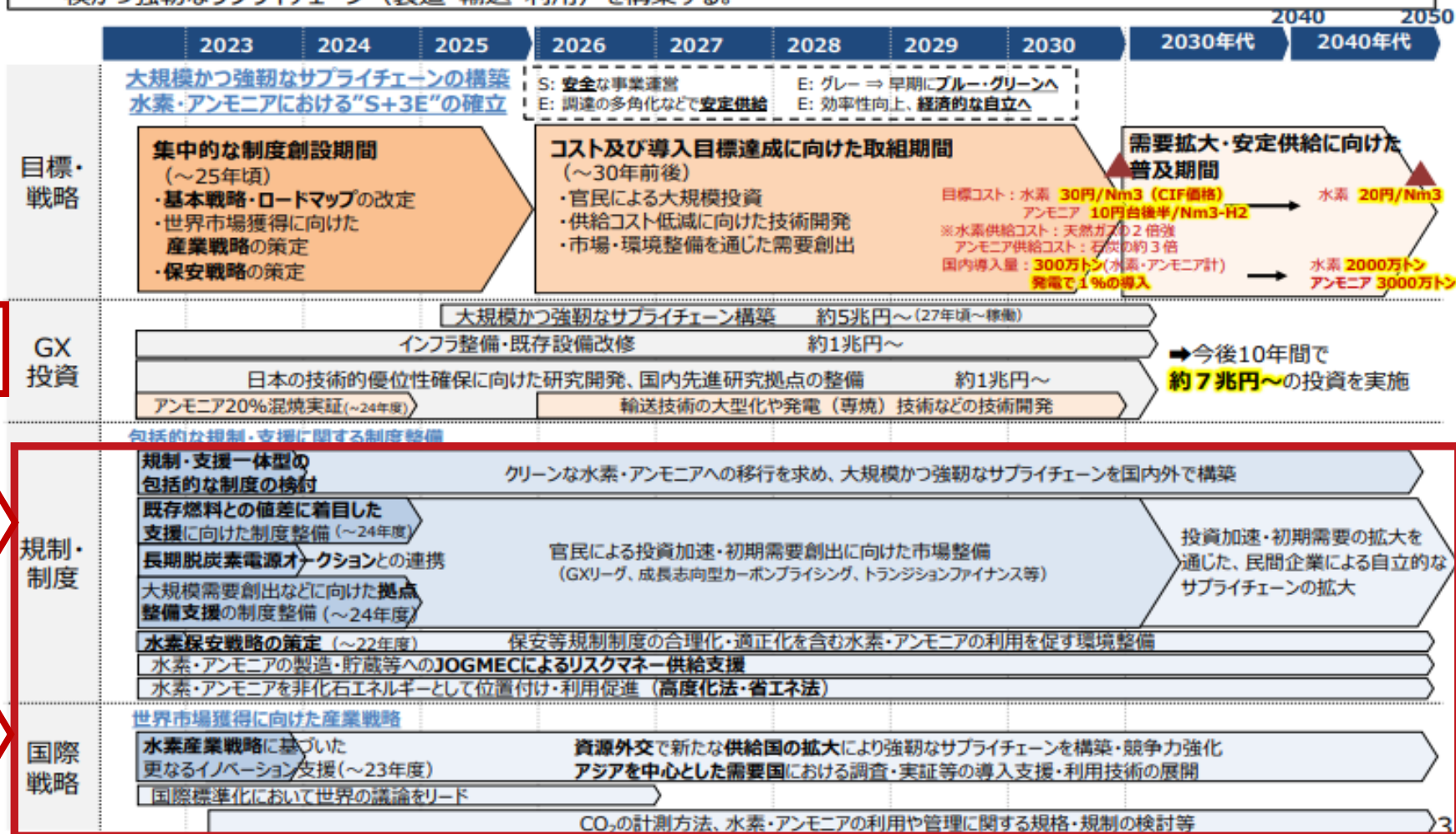


出典：2022/10/26 第3回GX実行会議 GX実行推進担当大臣提出資料に弊社追記

政策支援から民間投資拡大につなげる仕組みづくり

【今後の道行き】 事例1：水素・アンモニア

■ 水素・アンモニアの国内導入量2030年水素300万吨・アンモニア300万吨（アンモニア換算）、2050年水素2000万吨・アンモニア3000万吨（アンモニア換算）に向け、今後10年でサプライチェーン構築支援制度や拠点整備支援制度を通じて、大規模かつ強靱なサプライチェーン（製造・輸送・利用）を構築する。



民間事業者の
予見性確保

支援と規制・
制度との
長期・一貫
した連携

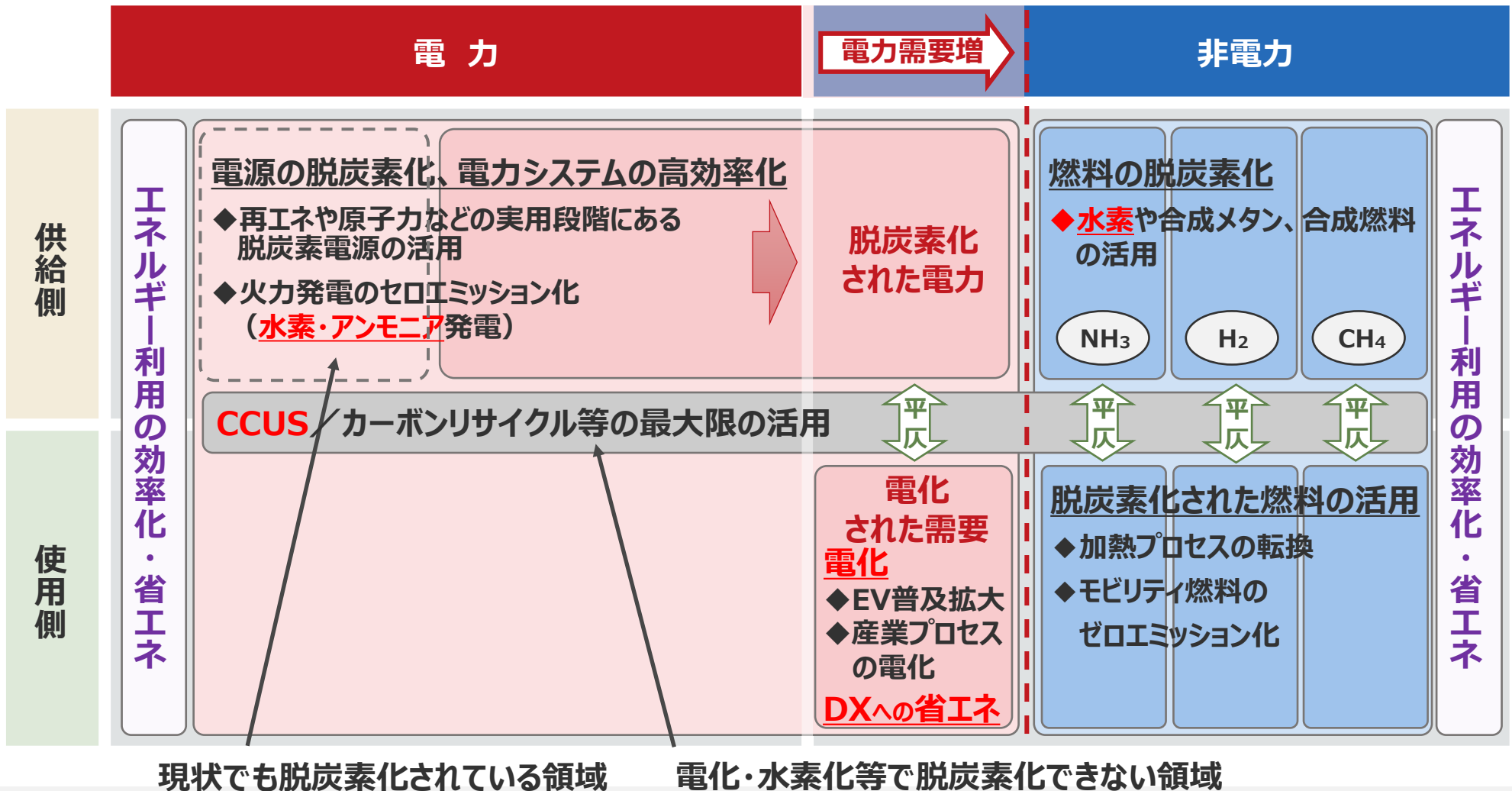
“技術で
勝って、
ビジネス
でも勝つ”
ことが必要

カーボンニュートラルへの転換イメージ

第4回GX実行会議
弊社提出資料(一部修正)



- 電力部門、非電力部門ともに、イノベーションが不可欠。
- 供給側と使用側の平仄を合わせたトランジションが必要。



① 経済成長との両立／新たな豊かさの享受

- 革新的技術の“いち早い社会実装”と“海外展開” ⇔ 国際規格・標準化
 - ・ ビジネス化
 - ・ 経済安全保障（サプライチェーンの確保、国際的なバリューチェーンで不可欠な分野の維持拡大）
- 協創を通じた新たな価値・サービスの提供、サイバーとフィジカルの融合
 - ・ Value Provider データプラットフォーム（DX）とエネルギー・プラットフォーム（CX）
 - ・ **新たなサービス（価値）を提供する企業とそれを支える技術（価値）を提供するモノ作り企業をセットで捉え、ユーザーに新しい価値を提供する主体の集合体とみて、その中で多様な価値を提供**

② 分散・循環型のネットワーク化

- 自立分散型エネルギーシステムの併用
- 大量生産・大量消費から少量変量多品種生産・消費へ
- 安全・安定・安心のための産業態勢
 - ・ 「中央集権」「都市への集中」「密度の向上」⇒「地方への分散」「密度の低下」

③ 生産性向上／多様性創出

- 無形資産投資（人財投資、研究開発）
- 多様性の発揮、高齢者・女性の更なる就労、労働者の適材適所
 - ・ 労働生産性向上 ⇒ 雇用の流動性 ⇒ 多様性の創出
 - ・ リスキリング、リカレント教育

カーボンニュートラル ⇨ 電気 × ICT = 新たな価値の創出

- **カーボンニュートラルの実現と経済成長を両立し、社会がより安全・安心に、そして新たな豊かさを享受できるよう変革していくことが重要。**
 - ◆ **経済発展に繋げるためには、いち早く国際規格・標準化することが必要。 ⇒ 経済安全保障**
 - ◆ **エネルギー・通信などの物理的インフラ、教育・医療などの制度インフラは、デジタル化により見える化が進む。それらのデータをプラットフォーム化し、産業・生活・社会の変容にどうつなげていくか、サイバーとフィジカルの融合によりどのような新たな価値・サービスを提供していくかが重要。 ⇒ Value Provider**
電化～デジタル化～データプラットフォーム化
- **エネルギーの分散化とモノの循環は、ともにデジタルが支える地産地消型社会という点で親和性が高い。**
 - ◆ **ICTを最大限活用し、エネルギーやモノの循環を高効率・高品質化させ、DXに向けた高省エネ化、レジリエンスも向上させていくことが重要。 ⇒ 分散型・循環型社会**
 - ◆ **新たな技術分野の開拓、制度整備、社会文化醸成を図ることに加え、それらをビジネスモデルとして成り立たせることが重要。 ⇒ 資源循環立国**

単に、エネルギーを脱炭素化することに留まらず、
「安全」「安心」「豊か」な暮らしに繋げることが肝要

G Xの実効性確保（全体像）

第4回GX実行会議
弊社提出資料(一部修正)



日本全体のロードマップと定量的なマイルストーンの必要性 エネルギー安定供給の確保とCN実現の両立

